

日本僑報社・日中交流研究所

「中国人の日本語作文コンクール」 最優秀賞 姚麗瑾さん来日・交流

挨拶する近藤昭一衆議院議員、右が姚さん



テーマ「ACGと日中関係」 豊かな発想が高く評価される

日本僑報社・日中交流研究所主催の「中国人の日本語作文コンクール」は今年で第10回の節目を迎えた。このコンクールは10年で日本語を学ぶ中国人たちにとって実力発揮の場であるだけでなく、自らの日本語能力に誇りを持つきっかけとなり、過去の入選者の中には現在、日中交流の最前線で活躍している人も

多い。さらに近年、何かと冷え込みが増す日中関係において日本の良さを理解し、日本語を身につけている知日派の存在は重要性を増しているといえる。

このほど「第10回中国人の作文コンクール」で最優秀賞（日本大使賞）に輝いた東華大学の姚麗瑾さん（テーマ「ACGと日中関係」）と日中関係に

全文掲載が来日し、あれほど高き評価を受けた。2月4日夜には参議院議員連盟の近藤昭一衆議院議員、西田またこと参議院議員などを表敬訪問して交流を深めた。

最初に日中交流研究所の長岡段雄氏が「中国人の日本語作文コンクール」を2005年にスタートさせて10年が経過したことを語った。

「昨年、公明党の山口那津男代表と習近平氏が会った時に山口の意見の違い、立場の違があるが、違いが問題であるわけではなく、違いを対話で解決していくことが重要だ」と語っていた。

この10年間で2万3000人が応募し、958人が受賞したことを紹介した。

近藤衆議院議員は「日中関係が良くないという政治的部分である。友好を進める活動、人と人の交流は途絶えてはいない。こうした取り組みをするこ

とによって友好が進む。皆様方の活動に敬意を表している。皆様方の交流がさらに進むことを望んでいる」と期待を込めた。

また、西田参議院議員は、段長が取り組んでいる「中国人の日本語作文コ

過。この10年間で2万3000人が応募し、958人が受賞したことを紹介した。姚さんは「日本人は大変優しい。街も綺麗な国だと深く感じている。将来は記者になるつもりだが、これから一生懸命勉強していきいたい。日本の大学に留学して勉強することを望んでいる」と語った。

一方、東華大学で日本語を教えているという指導教官の岩佐和美さんは姚さんについて「彼女は決して優等生ではない。中国の学生の作文は型にはまったものが多いが、彼女は発想が豊か。日中関係を恋人同士に例えたりする。そんな豊かな発想を高く評価した」と語り、中国の若者について「日本の学生に比べて純粋さ、ピュアな心を持っている」と評価した。

「殺されたから殺して、殺したから殺されて、それで本当に最後は平和になるのか」これは『機動戦士ガンダムS EED』で、幼馴染の主人公二人が立場の違いにより、相手を殺さなければならぬ情況下で抱いた疑問です。

「戦争の意義って何？」「これは私がこのアニメを見た後ずっと考えている問題です。当時、14歳でしかなかった私には、この問題は意味深かったです。

「人が命を失っても、戦争は精緻な場面のある作品だけでなく、ACGを通じて伝えたい作者の世界観も面白く、見る価値があると私は感じました。例えば『ガンダムS EED』の中では、遺伝子工学というハイテクをめぐって起きた倫理問題が発端で戦争が起るのですが、アニメを見る前はこんな展開になるとは思いませんでした。

また、このアニメはフィクションですが、描かれている平和を祈ります。」

現在の中国人に人気がある日本のACGにはこのように誤解を解く力が秘められています。好きなACGについて話し合いながら、相手国の姿

今の日中関係悪化の原因は、政治的原因以外に、双方の理解不足も原因の一つだと考えます。日中戦争の暗い影の下で、日本人全員が悪いと思っっている中国人は少なくないでしょう。しかし、これは事実ではありません。

「人を命を失っても、戦争は精緻な場面のある作品だけでなく、ACGを通じて伝えたい作者の世界観も面白く、見る価値があると私は感じました。例えば『ガンダムS EED』の中で、遺伝子工学というハイテクをめぐって起きた倫理問題が発端で戦争が起るのですが、アニメを見る前はこんな展開になるとは思いませんでした。

また、このアニメはフィクションですが、描かれている平和を祈ります。」

中国人の日本語作文コンクール最優秀賞受賞作文

「ACGと日中関係」

東華大学 姚麗瑾さん

戦争の場面は大変リアルで、命の脆さを丁寧に描いていました。そして、この戦争の切なさは私の頭に深く印象に残り、今の世界情勢を少し自分の身に近づけて考えてみようと思いはじめました。このアニメがきっかけで、私は日本のACGに興味を持ち、台詞をより理解するため日本語を勉強し始めました。

「ガンダムS EED」を見てから既に6年。今、私は日本語学部で勉強しています。日本語を勉強して2年目、授業中先生と学生が何度も日中関係をめぐって、討論しました。「日中関係が悪化すると、最悪の場合は戦争になる。先生がそう話したそばから、私は『ガンダムS EED』を思い出しました。

アニメの中に描かれている、戦乱のため、自分が自分の親友を殺さなければならない場面。私は絶対に経験したくないです。こう考えた私は、あるACGマニアが集まるウェブサイトにこう記しました。

「人が命を失っても、戦争は精緻な場面のある作品だけでなく、ACGを通じて伝えたい作者の世界観も面白く、見る価値があると私は感じました。例えば『ガンダムS EED』の中で、遺伝子工学というハイテクをめぐって起きた倫理問題が発端で戦争が起るのですが、アニメを見る前はこんな展開になるとは思いませんでした。」

また、このアニメはフィクションですが、描かれている平和を祈ります。」

現在、中国人に人気がある日本のACGにはこのように誤解を解く力が秘められています。好きなACGについて話し合いながら、相手国の姿

すると、二日目、意外なことに、ある日本人が私のコメントに返事をくれたのです。

「私もそう思いますよ。」

返事は大変短いものでしたが、私にもたらされた感動は大きかったです。ACGがきっかけで日本人と交流できることには驚きました。より取りこぼさず、日中の平和を祈っているのが私だけでなく、日本人の中にも中国に好意を持っている人がいることが分かったことです。

その後、ACGがきっかけで何度も日本人と交流する機会を得ました。互いに好きなアニメについて話し合っていると、様々な共通点が見つかりました。国籍は違っても、彼らは私の周囲の友達とまったく同じです。

交流した後、中国人への印象が変わったと私に言ってくれた日本人もいます。日本語学部の一学生にすぎない私ですが、自分の力が少しでも役立った気がして、嬉しかったので

（中国若者たちの生の声
『御宅』と呼ばれても
中国『90後』が語る日本のサブカルと中国人のマナー意識
第10回中国人の日本語作文コンクール受賞作品集から：日中交流研究所所長 段雄中編
日本僑報社）